

1. ザトウムシ(3~5mm)  
 2. オオムカデ(4~13cm)  
 3. 陸 目(2mm~8cm)  
 4. ヤスデ(1~5cm)  
 5. シムカデ(3~5cm)  
 6. アリツカムシ(1~5mm)  
 7. コムカデ(4~7mm)  
 8. ヨコエビ(3~10mm)  
 9. イシノミ(1~1.5cm)  
 10. ヒメフナムシ(4~7mm)  
 11. カニムシ(2~4mm)  
 12. ミミズ(3~40cm)  
 13. ナガコムシ(3~4mm)  
 14. アザミウマ(1.5~3mm)  
 15. イシムカデ(1.5~2.5cm)  
 16. シロアリ(3~8mm)  
 17. ハサミムシ(1~3cm)  
 18. ガ(幼虫)(5~30mm)  
 19. ワラジムシ(3~12mm)  
 20. ゴミムシ(0.5~2cm)  
 21. ソウムシ(4~8mm)  
 22. 甲虫(幼虫)(3mm~3cm)  
 23. カメムシ(2~6mm)  
 24. 甲 虫(1.5~20mm)  
 25. トヒムシ(1~3mm)  
 26. ダ 二(0.3~3mm)  
 27. ク モ(2~10mm)  
 28. ダンゴムシ(5~13mm)  
 29. ハエ・アブ(幼虫)(2mm~2cm)  
 30. ヒメミミズ(5~15mm)  
 31. ア リ(2~10mm)  
 32. ハネカクシ(3~10mm)

各動物名のあとの( )内はおよその  
体長を示す。

図1 大形土壌動物のグループ分け(青木, 1985を改訂した)

[引用文献]

青木淳一(1989): 土壌動物を指標とした自然の豊かさの評価、都市化・工業化の動植物影響調査マニュアル、千葉県、127-143

[ 様式 1 ]

植物 (動物) リスト

[ ]

目 名	科 名	種 名	学 名	文献番号
合計	目	科	種	

- ①本リストは、分類の綱（植物は亜綱）ごとに作成する。
- ②目名、科名、種名、学名、記載順については、「植物目録」（環境庁自然保護局 1987）及び「動物分布調査のためのチェックリスト」（環境庁自然保護局 1983）によるものとする。
- ③文献番号欄には、文献リストで文献に付した番号を記すものとする。

[ 様式 2 ]

鳥類現地調査票

重点モニタリング地域		調査J-番号		調査回数	/
調査年月日		調査時間	: ~ :	天候	
調査員氏名					

	種 名	個体数	観 察				観 察 中 の 特 記 事 項
			S	C	V	fl	
1							
2							
3							
4							
5							
6							
7							
8							
9							
10							
11							
12							
13							
14							
15							

	種 名	個 体 数	観 察				観 察 中 の 特 記 事 項
			S	C	V	fl	
16							
17							
18							
19							
20							
21							
22							
23							
24							
25							
26							
27							
28							
29							
30							
総 種 類 数			総 個 体 数				
			種				羽

（鳥類現地調査票記入上の注意）

1. 現地調査票は、調査コースの調査1回ごとに作成する。同一調査コースを2回以上調査した場合には、調査ごとに調査票を作成する。
2. 「重点モニタリング地域」には、調査コースが含まれる重点モニタリング地域の記号（A, B, C, ）を記入する。
3. 「調査コース番号」には、当該調査コースに付された番号を記入する。
4. 「調査回数」には、当該調査コースにおける調査回数（総数）を分母に、当該調査票に記入されている調査が、何回目のものであるのかを分子に記入する。  
（例）・当該調査コースで1回だけ現地調査が行われた場合は「1/1」と記入する。
5. 「調査員氏名」、「調査年月日」（西暦表示）、「調査時間」（24時間表示）には、該当する事項を記入する。
6. 「観察」の略号の意味は、以下の表のとおりであり、観察された内容に該当する欄に丸印を記入する。

略号	内 容
S	さえずりを聞いた。（さえずりには、キツネ類の「ラッガ」を含める。）
C	さえずり以外の声を聞いた。
V	姿を確認した。
f)	飛翔中のものを確認した。

S : Song      C : Call      V : Visual      f) : flight

7. 「観察中の特記事項」には、上記以外で観察された事項（観察された行動、群れの状態、その他）について簡略に記入する。

大形土壌動物現地調査票

重点モニタリング地域		調査年月日		天候		調査員氏名		
動物群名	調査時(A~)ごとに確認された個体数					出現頻度	平均密度	個体数 / m <sup>2</sup>
	A	B	C	D	E			
	調査時(A~)ごとに確認された個体数							
A	B	C	D	E				
1. ナミクダ								
2. ナミダ								
3. 陸貝								
4. ナミ								
5. ナミダ								
6. ナミダ								
7. ナミダ								
8. ナミ								
9. ナミ								
10. ナミ								
11. ナミ								
12. ナミ								
13. ナミ								
14. ナミ								
15. ナミ								
16. ナミ								
17. ナミ								
18. ナミ (幼虫)								

《大型土壌動物現地調査票記入上の注意》

1. 現地調査票は、重点モニタリング地域ごとに作成する。
2. 「重点モニタリング地域」には、当該重点モニタリング地域の記号（A, B, C,）を記入する。
3. 「調査年月日」（西暦表示）、「天候」、「調査員氏名」には、該当する事項を記入する。
4. 「出現頻度」、「平均密度」、「個体数/m<sup>2</sup>」には、次のような算定を行い記入する。

出現頻度 = 当該動物群が出現した方形枠の数 / 調査した方形枠の数

平均密度 = 当該動物群の総個体数 / 調査した方形枠の数

個体数/m<sup>2</sup> = 当該動物群の総個体数 / 調査した方形枠の合計面積 (m<sup>2</sup>)

[ 様式 4 ]

哺乳類現地調査票

重点モニタリング地域		調査コース番号		調査回数	/
調査年月日		調査時間	: ~ :	天候	
調査員氏名					

	種 名	個体 数	観 察 事 項					観 察 中 の 特 記 事 項
			v	c	St	Sb	Sd	
1								
2								
3								
4								
5								
6								
7								
8								
9								
10								



〈哺乳類現地調査票記入上の注意〉

1. 現地調査票は、調査コースの調査1回ごとに作成する。同一調査コースを2回以上調査した場合には、調査ごとに調査票を作成する。
2. 「重点モニタリング地域」には、調査コースが含まれる重点モニタリング地域の記号（A, B, C, ）を記入する。
3. 「調査コース番号」には、当該調査コースに付した番号を記入する。
4. 「調査回数」には、当該調査コースにおける調査回数（総数）を分母に、当該調査票に記入されている調査が、何回目のものであるのかを分子に記入する。  
（例）・当該調査コースで1回だけ現地調査が行われた場合は「1/1」と記入する。
5. 「調査員氏名」、「調査年月日」（西暦表示）、「調査時間」（24時間表示）には、該当する事項を記入する。
6. 「観察」の略号の意味は、以下の表のとおりであり、観察された内容に該当する欄に丸印を記入する。

略号	内 容
V	姿の確認
C	声の確認
S t	フィールドサインの確認（足跡等）
S b	”（採餌痕）
S d	”（ふん）

7. 「観察中の特記事項」には、上記以外で観察された事項（観察された行動、群れの状態、その他）について簡略に記入する。

< 別紙 2 >

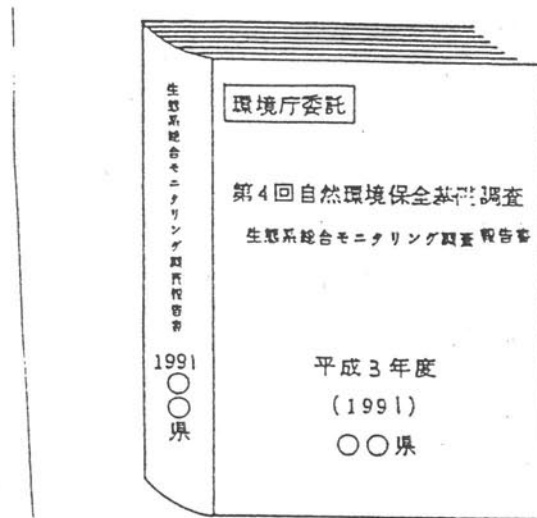
報告書作成要領

1. 規格

B4、左綴じ、横書きとする。

2. 表紙及び背文字

表紙は、淡赤色、B5、ファイル（「コクヨ、フー11、B5S」、「リヒト、No.601S」等）を使用し、タイトル、背文字等を下図の様式により記入する。（黒サインペンによる手書きでよい。）



3. 配列

各項目の配列は以下のとおりとする。

- (1) 目次
- (2) 広域モニタリング調査結果の概要
  - ①地域の概要
  - ②自然環境等の概要
    - ア. 地形・地質の概要
    - イ. 植物の概要
    - ウ. 動物の概要
      1. 動物の生息空間分布の概要
      2. 海域の生物環境の概要
      - カ. 気象の概要
      - キ. 水系に係る環境の概要
      - ク. 大気に係る環境の概況

③社会的環境の概要

7.土地利用の概況

イ.開発の歴史・計画の概要

ウ.土地利用・自然環境保全に係る法制度の概況

エ.人口の推移

オ.その他

(3) 重点モニタリング調査結果の概要

①調査対象区域（重点モニタリング地域）

②重点モニタリング地域の自然環境の概要

③鳥類調査

④土壌動物調査

⑤哺乳類調査

(4) 資料リスト

(5) 調査担当者名簿

(6) 調査指導学識経験者名簿

4. 各項目の取りまとめ方法

(1) 目次 (略)

(2) 広域モニタリング調査結果の概要

①地域の概要

広域モニタリング地域の位置、範囲、自然環境及び社会的環境について、その概要を記述する。また、モニタリング地域の位置及び範囲について示した縮尺1/20万程度の図面を添付する。

②自然環境の概要

7.地形・地質の概要

当該地域の地形、地質、土壌について、その概要を記述する。また、地域内の大規模な地形の改変（盛土、切土、河川の流路変更、水面の埋立、湛水等）の状況について、記述する。

1.植生の概要

- ・当該地域の植生の現状について、その概要を記述するとともに、現存植生図に出現する植生凡例及び相観植生図に出現する植生凡例それぞれについての解説を記述する。
- ・また、当該地域の植物相リストを添付するとともに、重要な種、群落が分布する場合については、その分布の状況について記述し、適宜、分布図等の図面を添付する。

ウ. 動物相の概要

- ・当該地域の動物相について、そのリストを添付し、分類群（哺乳類、鳥類、……、昆虫類等）ごとに、その分布の概要を記述する。
- ・また、重要種等が分布する場合は、その生息状況について記述するとともに、適宜、分布図等の図面を添付する。

エ. 動物の生息空間（ビオトープ）の分布の概要

動物の生息環境となり得る森林、巨木、湧水、池沼、河川敷、緑地帯等並びに動物の移動を阻害する人工構造物（道路、鉄道等）の当該地域における現状について、動物の生息状況との関係を含め記述する。

オ. 海域の生物環境の概要

当該地域に含まれる海域の生物環境（サンゴ生息状況、干潟・藻場の分布状況等）の概要について記述する。

カ. 気象の概況

当該地域の気候の概況、特性について、季節変化を含めて記述するとともに、当該地域（または近隣地域）における気象観測データから、気温（平均気温、最高気温、最低気温）及び降水量に関する月間データ、年間データを最近2年間分取りまとめた表を記載する。また、積雪地にあっては、平均積雪及び最大積雪について月別に取りまとめた表を記載する。

キ. 水系に係る環境の概要

当該地域内の水系の概況（分布、水質、流量）について記述する。また、公共用水域等の水質データ及び河川等の流量データについては、表に取りまとめ記載する。

ク. 大気に係る環境の概況

当該地域内の大気質の概況について記述する。また、当該地域（または近隣の地域）における大気質の観測データを表に取りまとめ記載する。降水の分析データ（pH等）がある場合についても同様に記載する。

③ 社会的環境の概要

7. 土地利用の概況

当該地域の土地利用の現況について、その概要を記述する。

イ. 開発の歴史・計画の概要

当該地域における過去の開発の経緯、将来の開発計画について、年表の形で記載する。

ウ. 土地利用・自然環境保全に係る法制度の概況

当該地域における土地利用・自然環境保全に係る法制度による指定等の状況について記述するものとする。

イ. 人口の推移

当該地域における人口の分布の状況及びその推移について記述する。

ロ. その他

当該地域内において、地域の生態系に大きな影響を及しているまたは及ぼすおそれがあると考えられる要素が存在する場合には、その内容を記述する。（例えば、生ゴミ処理の実態、動物への給餌の実施状況等）  
また、必要に応じ図面を添付する。

(3) 重点モニタリング調査結果の概要

① 調査対象区域（重点モニタリング地域）

- ・ 重点モニタリング地域の位置及び区域を示す図面を添付するとともに、それぞれの重点モニタリング地域ごとに、その自然環境を踏まえて選定理由を記述する。
- ・ また、当該地域の土地の所有者、管理者、法令による規制状況について記述する。

② 重点モニタリング地域の自然環境の概要

重点モニタリング地域ごとに植生、動植物相等自然環境の概況について記述する。

③ 鳥類調査（冬期）

- ・ 重点モニタリング地域毎に調査の実施状況及び確認された鳥類の生息状況について、取りまとめ記述する。
- ・ 調査コースを示した適当な縮尺の図面及び調査票（様式2）を添付する。
- ・ 架設した巣箱の位置を示す図面を作成し添付する。また、個々の巣箱の設置状況に関する以下の項目を取りまとめ記述するとともに、設置状況写真を添付する。  
〔周辺の植生の状況、架設木の樹種、巣箱入口の地上高・方位、巣箱周囲の状況（枝張り等）〕

④ 土壌動物調査

- ・ 調査の実施状況について記述するとともに採取地点を示した適当な縮尺の図面及び調査票（様式3）を添付する。また、採取地ごとに周辺の植生等の状況について記述するとともに、採取地（周辺の環境も含めたもの）の採取前の状況を撮した写真を添付する。

⑤ 哺乳類調査（冬期）

- ・ 重点モニタリング地域毎に調査の実施状況及び確認された動物の生息状況について、取りまとめ記述する。
- ・ 調査コースを示した適当な縮尺の図面及び調査票（様式4）を添付する。

(4)資料リスト

調査に用いた主な既存資料について記載する。

資料名	著者名	発行年

(5)調査担当者名簿

調査に従事した者全員について記入する。

氏名	所属

(6)調査指導学識経験者名簿

調査に関し指導を受けた学識経験者について記入する。

氏名	所属